



Title	堺市環境保健局衛生部長：高橋月郎さん
Author(s)	新井, 富士子
Citation	大阪公衆衛生. 1987, 51, p. 18-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83940
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インタビュー記

堺市環境保健局衛生部長

高橋 月 郎 さん



前号では東大阪市の吉田衛生部長（当時）にインタビューをしました。今回は、堺市環境保健局衛生部長の高橋月郎さんをお訪ねします。聞き手は、東大阪市西保健所の保健婦新井富士子さんです。

事務職員と技術職員

新井富士子 部長さんは今年の8月にご就任なさったとうかがっておりますが、衛生部のような技術職が多い職場にいらっしゃってどのようなご印象をもたれましたか。

高橋月郎 衛生部には技術職員の方が大勢従事されているわけですが、皆さんそれぞれ専門のことについては資格制度で一定の社会的認知を受けておられるわけですから、一つの見識というか、その分野に関しては自信をもっておられるという印象をもっています。

たとえば事務職は、90度はもちろんのこと89度でも91度でも直角といえますが、技術職の方にとってはそうはいかない。直角とは90度でなければならないと思われるのです。

そういう意味から考えますと、一面では事務職の方がフレキシブルであるといえますし、

一方で妥協しやすいという欠点を持っていると思います。しかし、それはそれぞれの特性であって、相互に補完しあうてうまくやっていけるのではないのでしょうか。

新井 東大阪市の場合は保健所が3ヶ所あって、事業内容が統一されていないという悩みがあるのですが、古くから保健所をもっておられる堺市の場合はどうなのでしょう。

高橋 堺市の場合はすべての保健所が同時に設立されたわけではなく、順次市域を分割して現在にいたっているわけですから、当然母体の保健所でのいろんな蓄積を継承していますので、事業としては統一されたかたちになっています。

しかし、たとえば宿院保健所はNHKの大河ドラマで紹介されたような歴史のある地区を所管しておりますし、一方では泉北保健所のように人工的につくられたニュータウンを管轄地域としているところもあるわけです。ということは、かなり対象とする人や物がちがうわけですから、おのずから対応がちがってくるということがあるわけです。むしろ私の意見としては、保健所ごとに独自性というか、主体性をもって事業を計画していくということも今後あっていいのではないかと思います。

保健所ごとの特色を

たとえば保健所運営協議会の構成メンバーをみますと、鳳保健所、ここはまだ総体的に田園が残っておりますから農協の代表の方が委員になるとか、あるいは堺市の繁華街のある宿院保健所には、喫茶店や、料理・仕出し業等の代表の方がはいるとかいったようなことを実際に行っているわけですから、それぞれの特色を十分に活かすということもあっていいわけです。

新井 堺市にはたしか保健所が4ヶ所あると聞いてまいりましたが？

高橋 4つの保健所と2つの保健センターがあります。

新井 保健所での市民サービスという点でとくにご留意されておられることは何ですか。

高橋 これからのことを申しあげますと、健康増進という立場で保健所などを利用していただく、身近な印象をもっていただくというPRが大事ではないかと思います。

そういう意味で堺市では年1回ではあります。衛生部の記事を集めて新聞の折込みで各戸に配布するといったこともおこなっています。

広報「特集号」

新井 昨年でしたか、保健婦の氏名を全部載せて「あなたの地区担当保健婦は誰々ですよ」といったことを全市民にPRされたそうですが、こんなことはなかなかできないことではないでしょうか。大変うらやましく思います。

高橋 この事業は昭和57年から始めたそうで今年で5回目になります。第1回目のテーマは「保健所」ということで、保健所のことを市民の皆さんに知っていただくという観点から編集したそうです。その後毎年テーマをかえて2回目以後「老人保健」「食生活と健康」そして今おっしゃった「保健婦活動」というように作成しているのです。

私自身も衛生部にきて昨年の特集号を見せていただいて非常に驚きました。こういうことを保健婦さんの自らの発想で行ったとしたら、かなり勇気のいる行為だったと思います。

新井 おそらく保健婦の存在や活動をもっと市民の中に浸透させたいというお気持ちでこんな意見がでてきたのでしょうね。

高橋 そうでしょうね。一般の市民の立場にたったらなかなか保健所を利用することも少ないでしょうし、保健婦さんが何をする人なのかわからない。ですからある意味においてはこのような記事は形をかえた啓発になって

いますね。

新井 ところで堺市はもうすぐ市政100年をむかえるとうかがいましたが、それに向けて何か予定されていることがありますか。

高橋 昭和65年は市政が施行されて100年目にあたります。その記念事業として位置づけられるかどうかは分かりませんが、昭和65年前後に向けての事業がありますので、少しご紹介します。

ひとつは心身障害者（児）の歯の治療、あるいは休日の歯科治療、そして市民の方々への口腔衛生思想の啓発、さらにはそれらのための歯科補助者の養成といったことを柱にした（仮称）口腔衛生センターという建物をつくろうかと思っています。

もうひとつは先程のお話のなかでました鳳保健所、これが古くなっていたんできたこと、少し最寄りの駅から遠いことなどから別の場所への移転を計画しております。この移転先には図書館の支所のようなものや福祉事務所を併設して、すこしでも便利になるように考えています。

それと現在堺市には休日診療センターが1ヶ所あるわけなんです。この場所がすこし堺の北よりに立地していますことから、かならずしも全市民に利用しやすいとはいえない。堺の南側にお住まいの方はむしろ狭山・美原町の休日診療所へお世話になっているわけなんです。このままでは問題があるので、市の南部方面に是非もう1ヶ所、休日診療を行う施設をと考えています。

いままでご紹介したことはすべてハード面での事業ですが、本当のことをいえばもうすこしソフト面での対応も欲しいところなんです。

新井 堺市の保健所ではどんなことに重点をおかれていますか。

高橋 保健所では老人保健法がらみの事業が今後おそらく重点になっていくだろうと思います。

弱い時代の巨人軍にほれて

新井 部長さんご自身も毎日がとてもお忙しいと思いますが、特に何か健康上気をつけていらっしゃることはありませんでしたら教えて下さい。

高橋 とくにこれといってありませんが、自分で腕を回したりとか、柱に手をかけて足をあげたりとかいったことを15項目ほど表にして持っておりまして、その日にできたことを毎日、記入しております。全部はとてもできませんから、たとえば今日は15のうち8つ実行したから8勝7敗で勝越しだというようなことを記入しているわけです。

それとあとは草野球ですね。ソフトボール軟式野球にかかわらずいろんなチームに所属しておりましてこれは続けておりますね。

新井 野球がお好きのようですが、プロ野球はどちらのファンでいらっしゃいます？

高橋 私は弱い時代の巨人にほれこみましてもう40年来の巨人ファンです。

巨人に関連した本などは、すこしずつですが毎日読んでいるぐらいです。ですから長嶋の打率なんかは入団した年から引退するまで全部頭にはいっていますよ。

新井 すごいですねえ。それでは、最後のご質問になりますが、衛生部長として、これからの抱負をお聞かせねがえませんか。

高橋 抱負なんてものは、おこがましくて言えません。ただ私が日頃感心しているのは、衛生部にはベテランの人が多くて、ひとつの現象をとらえても実にいろんな角度からものを見て、しかも見方が深いと思うんです。ですから色々勉強して、教えてもらったりしているうちに、私がどうこうしようと思えるよりも、答えが結果的についてくるのではないのでしょうか。

新井 今日は忙しいところいろいろとありがとうございました。

ちょっと一言

小心翼翼な性格であると自己分析されていた高橋衛生部長さんでしたが、何事にも精進を心がけ、力まず、淡々と着実に物事を処理される方という印象をうけました。そして、どんな部署に所属しても、発想転換の必要性や視点を変えて全体の流れをとらえることの大切さを教えられました。

私も健康な生活を維持するための側面援助者として幅広い視野を養っていきたくて思いました。

(新井 富士子)